



6-1 地球環境の保全

環境への負荷を減らし、地球環境にやさしいまちづくりを進めます。

■施策の展開内容

地球環境への負荷を減らすため、カーボンニュートラルの実現に向けた取組など、市民・事業者・行政が一体となって進めていきます。

■現状と課題

- 二酸化炭素などの温室効果ガス排出による地球温暖化は、深刻な影響が懸念されており、温室効果ガス排出量の実質ゼロ（※1）を目指す「カーボンニュートラル」が国際的な潮流となっています。市としても、令和2年7月に表明した「ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けた取組を進めていく必要があります。
- 地球環境を保全し未来に残していくには、持続可能な循環型社会の形成が不可欠です。限りある資源をできる限り有効に利用し、廃棄物の発生抑制や再利用など、市民・事業者・行政が一体となって推進していく必要があります。

（※1）温室効果ガス排出量の実質ゼロ

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス排出量と、森林などによる吸収量との間の均衡を達成し、実質ゼロにすること。「ゼロカーボンシティ宣言」では、2050年までに達成することを目指している。

■主な取組

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、市域全体の温室効果ガス排出量と吸収量を的確に把握し、取組を推進していきます。
- 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を削減するため、市民や事業者へ環境にやさしい暮らしや事業活動に向けた環境意識を向上する取組を進めます。
- 公共施設での再生可能エネルギー利用、省エネルギー設備の導入を進めます。

環境負荷低減に向けた取組の推進

- 環境への負荷を可能な限り減らすため、ごみの減量と資源化を進め、最終処分量の削減に取り組みます。
- 分別ルールの徹底やプラスチックごみの発生抑制、食品ロスの削減などについて啓発活動に取り組みます。
- 3R（ごみの発生抑制・再使用・再生利用）の推進という観点から、市民がごみの減量や資源化に関することを体験しながら学べる機能などを有する資源化施設の整備

を検討します。

- 廃棄物を適正に処理するとともに、クリーンセンターで廃棄物を焼却した際の熱をエネルギーとして回収し、余熱を利用した発電などを行うことで地球環境への負荷低減を図ります。

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値	備考
市の事務事業を通して排出されるCO ₂ の量	27,728 t-CO ₂ (R2)	23,860 t-CO ₂ (R7)	令和3年から令和7年を計画期間とするエコ・プロジェクト5の目標値
1人1日当たりの総ごみ(可燃・不燃・資源)排出量	842g (R2)	808g (R4)	令和3年度までの一般廃棄物対策基本計画を1年延長したため、令和3年度目標を、引き続き令和4年度目標とする。令和4年度策定予定の一般廃棄物対策基本計画で改めて目標値を設定する。
最終処分量※1	3,377t (R2)	3,000t (R4)	

※1 放射能の影響で燃やせないごみとなった剪定枝木や落ち葉・雑草分は除く。

■ 施策の満足度・不満足に関する指標(現況値は令和元年の市民アンケート結果を記載) 【環境負荷低減に向けた取り組み】

※令和元年に実施した市民アンケートで「重要」「やや重要」と回答した人の割合 76.4%

指標名	現況値	目標値	備考
満足している人の割合(市全体)	38.9%	54%	「満足」「やや満足」と回答した人の割合
不満を感じている人の割合	我孫子地区	7.6%	7.3%以下 「不満」「やや不満」と回答した人の割合
	天王台地区	7.4%	
	湖北地区	11.4%	
	新木地区	14.3%	
	布佐地区	12.5%	